

《プレスリリース》

2020年1月7日

公益財団法人美術文化振興協会

報道ご関係者各位

第1回 JAPA 天心賞 受賞者発表

令和元年、公益財団法人美術文化振興協会(理事長 大津英敏、東京都杉並区)は、当財団の顕彰事業として「JAPA 天心賞」(JAPA TENSHIN Prize)を新設し、第1回「JAPA 天心賞」受賞者を決定いたしました。

「JAPA 天心賞」は、岡倉天心(1863年-1913年)の日本の芸術に果たした功績とその国際性に敬意を表し創設されました。当賞は、日本の伝統文化を基盤とする創作活動やその研究、さらには美術文化を通じて国際交流面でも優れた貢献を果たす者の功績を称えていくものです。

この度、第1回「JAPA 天心賞 大賞」受賞者が、エネルギッシュな創作活動で注目を集める日本画の岡村桂三郎(おかむらけいぎぶろう 1958年-)氏に決定しましたので発表いたします。

また、90歳を超えて尚国内外でご活動を展開されておられる染色の柚木沙弥郎(ゆのきさみろう 1922年-)氏に「JAPA 天心賞 特別賞」が授与されます。

授賞式、受賞記念展は以下の予定で開催いたします。

◎2020年1月29日(水) 第1回 JAPA 天心賞 授賞式 開式 17時～

(受付 16時30分～) 会場:日本橋三越本店 本館7階 特別食堂「日本橋」

◎2020年1月29日(水)～2月3日(月) 10時～19時(最終日は17時閉場)

第1回 JAPA 天心賞受賞記念 岡村桂三郎展 ―異界へ―

会場:日本橋三越本店 本館6階 美術特選画廊

*2月1日(土)14時より 会場にて、岡村桂三郎氏によるギャラリートーク

本件の概要及び当財団に関して別紙にご案内させていただきます。

ぜひとも、第1回「JAPA 天心賞」の授賞式、展覧会にご来場頂きますと共に、ご取材、ご紹介を頂きたいようお願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ】

公益財団法人美術文化振興協会 事務局 (担当:事務局長 加賀谷早苗)

TEL:03-3334-7918 FAX: 03-3334-7919 E-MAIL:info@finearts.or.jp

〒167-0053 東京都杉並区西荻南 4-12-4

ごあいさつ

JAPA 天心賞の創設

～ 第1回 JAPA 天心賞受賞記念 岡村桂三郎 展 に寄せて ～

公益財団法人美術文化振興協会（JAPA）は、1977年夏に福田赳夫総理大臣がASEAN諸国を歴訪し、最終訪問地のマニラで「心と心の触れあい」に根ざす東南アジア諸国の真の友人としての関係構築を打ち出した歴史的なスピーチ「福田ドクトリン」に共鳴したことに端を発し設立されました。ASEAN諸国との人間、文化、芸術の交流を通じた関係強化を目指す美術文化振興協会の設立が発起され、その創設が成されました。

爾来、当財団は広く美術家の交流を促進し、日本文化の伝統を基盤とした創作活動を奨励するとともに、諸外国との美術文化交流を図ることにより、日本及び諸外国の美術文化の向上と発展に寄与することを目的として活動しています。

JAPAは1981年に文部省（当時）の認可を得て財団法人美術文化振興協会として発足し、2014年には内閣府の認定を得、公益財団法人として一層公益に帰することをめざし新たな一步を踏み出しました。この公益化の折に、当財団の事業として顕彰事業を再興し、芸術家の活動を奨励していく一助となることを念願して参りました。

この度、岡倉天心（1863年-1913年）の日本の芸術に果たした功績とその国際性に敬意を表し、当財団の顕彰事業として「JAPA 天心賞」（JAPA TENSHIN Prize）を創設することとしました。岡倉天心は明治以降近代の日本の芸術の発展に貢献されました。また、日本の伝統芸術を国際的に知らしめ、国際交流を進めようとされた所に歴史的な意義が見いだされます。

岡倉天心を思うことは、JAPAの担うべき役割を、また日本の芸術を心して見つめ直すことでもあります。同時に六角堂に座しておられる岡倉天心像を前にするまでもなく、常に岡倉天心先生から問われる峻厳を実感するものであります。

JAPAの創設する「JAPA 天心賞」では、日本の伝統文化を基盤とする創作活動やその研究、さらには美術文化を通じて国際交流面での優れた貢献を果たす者の功績を称えていく所存です。この度は近年の創作活動を中心に見据えながらも生涯のご活動を総括して選考させて頂きました。

第1回「JAPA 天心賞 大賞」は、日本画の伝統を新たな境地へと昇華させた創作活動が評価され、岡村桂三郎氏（1958年-）に決定いたしました。

本展では、大賞受賞を記念し、岡村桂三郎氏の大作から新作までを展覧いたします。

また、第1回 JAPA 天心賞におきましては、澁刺とした仕事を長年に渡りお続けになられ、世界を眺めて仕事の水準を高められてきたその野心的な創作活動を称えたく、「JAPA 天心賞 特別賞」が設けられ、染色作家の柚木沙弥郎氏（1922年-）に授与されますことをここに特筆させていただきます。

「JAPA 天心賞」の創設により、日本の美術文化の発展に一層貢献し、日本の芸術家の活動が日本はもとより国際的に拓かれ、多くの人と人の心が繋がれますことを祈念いたします。

公益財団法人美術文化振興協会

公益財団法人美術文化振興協会(JAPA)

顕彰事業「JAPA 天心賞」とは

【事業内容】

- ・概要: 賞を新設し、美術文化に関する優れた業績のある者の顕彰を行います。
- ・名称: 「JAPA 天心賞」
- ・対象: 美術文化に関する顕著な創作活動、さらには国際交流面でも貢献を果たす者の功績を称えていく考えであります。
- ・開始時期: 令和1年度(2019年4月～2020年3月)
推薦／選考／授賞式／受賞記念展覧会開催(東京)
- ・開催頻度: 開始後、年1回もしくは隔年に1回程度の開催。
- ・顕彰人数: 1回の開催につき大賞1名を顕彰。
(特別に顕彰する者に関して別途賞を設ける場合があります。)
- ・作品展示: 一般公開される作品展示を1～2週間程度、入場無料で実施します。
- ・賞金等: 受賞者には賞金と賞状等を授与します。
- ・主催: 公益財団法人美術文化振興協会

【日程】

2019年4月～12月 推薦受付(5月)～選考～受賞者決定

2020年1月29日(水) 授賞式 (日本橋三越本店 本館7階 特別食堂「日本橋」)

2020年1月29日(水)～2月3日(月)「JAPA 天心賞 大賞」受賞記念展

(日本橋三越本店 本館6階 美術特選画廊)

*2月1日(土)14時より 岡村桂三郎氏によるギャラリートーク

【選考委員】

真室佳武氏(東京都美術館 館長／鏑木清方記念美術館 館長)

酒井忠康氏(世田谷美術館 館長)

建畠哲氏(埼玉県立近代美術館 館長／多摩美術大学 学長)

黒田亮子氏(美術史家)

土方明司氏(平塚市美術館 館長代理)

【実施方法】

- ・顕彰に関する実施要項を当財団理事会で定めて実施する。
- ・選考方法:受賞者の選考に関して予定している選考方法は以下の通り。
 - 1)当財団理事会が、選定する分野(日本画、洋画、工芸、日本伝統文化研究、国際文化交流等)及び受賞者の人数、選考基準等を定める。
 - 2)受賞者推薦委員を設定する。
 - 3)推薦委員は芸術家あるいは団体を対象に調査を行い、受賞候補者の推薦内容を当財団に提出する。
 - 4)当財団が設置する選考委員会(美術文化に関する専門家・有識者によって構成される)において選考される。選考委員は当財団が選考する分野の専門家に委嘱する。
 - 5)選考委員会は受賞候補者を絞り、当財団理事会に提出する。
 - 6)当財団理事会はそれを受けて、受賞者を決定する。
- ・公開:この顕彰事業は、一般公開される展覧会及びカタログ(無料)等の印刷物の配布やホームページ上への情報掲載により広報する。

【実績】

これまでに実施した顕彰事業は以下の通り。

- 1)昭和 56 年(1981 年)宮本三郎記念賞創設。洋画家・宮本三郎の業績を記念し、優れた具象洋画作品を選考し、賞の授与及び受賞作家の回顧展を開催。受賞作家は以下の通り。

受賞作家:藤田吉香、國領経郎、奥谷博、浮田克躬、松樹路人、大沼映夫、山下充、島田章三、小松崎邦雄、山本文彦、大津英敏、野田弘志、麻田浩、入江観、山本貞(全 15 回実施し、平成 9 年(1997 年)に終了)

- 2)昭和 57 年(1982 年)(財)美術文化振興協会賞を創設し、選考と賞品の授与を行う。受賞作家は以下の通り。

第一回【日本画部門】下保昭、加山又造、工藤甲人、下村良之助、平山郁夫

「明日への展望-日本画の 5 人」展を銀座松屋と大阪大丸で開催

第二回【洋画部門】有元利夫、宇佐美圭司、絹谷幸二、三尾公三、元永定正

「明日への展望-洋画の 5 人」展を銀座松屋と大阪大丸で開催(全 2 回実施し、終了)

- 3)平成 4 年(1992 年)右卿記念賞を創設し、選考と賞品の授与を行う。

受賞作家:鈴木桐華、上松一条、小林抱牛(全 3 回実施し、終了)

以上

JAPA 天心賞の創設にあたって

公益財団法人美術文化振興協会（JAPA）は、広く美術家の交流を促進し、日本文化の伝統を基盤とした創作活動を奨励するとともに、諸外国との美術文化交流を図ることにより、日本及び諸外国の美術文化の向上と発展に寄与することを目的として活動しています。

JAPA は 1981 年に文部省の認可を得て財団法人美術文化振興協会として発足し、2014 年には内閣府の認可を得、公益財団法人として一層公益に帰することをめざし新たな一步を踏み出しました。この公益化の折に、当財団の事業として顕彰事業を再興し、芸術家の活動を奨励していく一助となることを念願して参りました。

この度、岡倉天心（1863 年-1913 年）の日本の芸術に果たした功績とその国際性に敬意を表し、当財団の顕彰事業として「JAPA 天心賞」

（JAPA TENSHIN Prize）を創設することとしました。岡倉天心は明治以降近代の日本の芸術の発展に貢献されました。また、日本の伝統芸術を国際的に知らしめ、国際交流を進めようとされた所に歴史的な意義が見いだされます。岡倉天心を思うことは、JAPA の担うべき役割を、また日本の芸術を心して見つめ直すことであります。

JAPA の創設する「JAPA 天心賞」では、日本の伝統文化を基盤とする創作活動やその研究、さらには美術文化を通じて国際交流面でも優れた貢献を果たす者の功績を称えていく所存です。

「JAPA 天心賞」の創設により、日本の美術文化の発展に一層貢献し、日本の優れた芸術家の活動が日本はもとより国際的に拓かれ、多くの人々の心を繋いでいくことを祈念いたします。

公益財団法人美術文化振興協会

2019 年 1 月 21 日

美術文化振興協会の生い立ち

財団法人美術文化振興協会 名誉会長
小和田恆(国際司法裁判所所長)

財団法人美術文化振興協会の誕生は、今から30年前に遡ります。



1977年夏、福田赳夫総理大臣はASEAN諸国を歴訪し、最終訪問地のマニラで歴史的なスピーチを行いました。「心と心の触れあい」に根ざす東南アジア諸国の真の友人としての関係構築を打ち出したいわゆる「福田ドクトリン」は、その後今日までわが国の東南アジアに対する外交の基本となる柱として、内外から高く評価されてきております。

この福田ドクトリンの思想に深く共鳴した山崎覚太郎日展会長(当時)と西春彦元駐英大使が福田総理を訪ね、ASEAN諸国との人間、文化、芸術の交流を通じた関係強化を目指す美術文化振興協会の設立について同総理の積極的支援を要請したのが本協会発足の端緒でありました。当時総理秘書官としてこのマニラ・スピーチ作成に深くかかわった私が、協会設立のお手伝いをするよう一任されてその創設に協力することになったのは、そういう経緯からのことです。

「日本外交とは経済外交だ」という考え一色に塗りつぶされていた当時の潮流の中であって、人びとの心と心の交流こそこれからのアジア外交の核心であり、そのためには芸術文化面での国際交流が大切であるという考え方は貴重なものでした。その精神は今日まで本協会の活動の中に脈々と受け継がれております。

財団法人美術文化振興協会は、広く内外の美術分野の交流を促進して日本文化の伝統を基盤とした創作活動の奨励に努めるとともに、伝統美術文化を中心とした国際交流の推進を図ることを目的としております。この目的を実現するため、国内においては、美術文化振興協会賞(日本画・洋画)、宮本三郎記念賞(洋画)、右卿記念賞(書道)を創設して優れた作品を表彰する活動を行ってまいりました。また国際面においては、わが国の伝統美術について、各分野での第一級芸術家に委嘱してその歴史、哲学、実技を三位一体として教授することによって日本文化の本質を理解してもらうことを目指す日本美術文化講座を米国のハーヴァード大学(1982-90)オランダのライデン大学(2005-)など海外著名大学で実施してきております。さらに、東南アジア諸国との工芸分野での技術交流にも力を注いでまいりました。

その生い立ちから明らかなおり、本協会はグローバル化が進む今日の世界において、異なった社会と社会、人間と人間の間での心の交流こそ真の国際交流の礎を築くという信念に基づいて、これまでの活動をいっそう強化発展させていきたいと願っております。

私どもの志に賛同される皆様方の御支援と御協力を心からお願い申し上げます。

(※上記は公益財団法人移行前の2007年に著述されました。法人名、役職名等は当時のまま記載しています)

公益財団法人 美術文化振興協会

<概要>

- 名称 公益財団法人 美術文化振興協会
- 英語表記 The Japan Association for the Promotion of Arts (英語略称: JAPA)

- 目的

この法人は、広く美術家の交流を促進し、日本文化の伝統を基盤とした創作活動を奨励するとともに、諸外国との美術文化交流を図り、もって我が国及び諸外国の美術文化の向上と発展に寄与することを目的とする。

- 事業

前項の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 美術文化に関する国際交流
2. 美術文化に関する研究会・講演会等の開催
3. 美術文化に関する展覧会の開催
4. 美術文化に関する優れた業績のある者の顕彰
5. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

- 沿革

- 1981年 文部大臣の認可を受けて設立
- 1981年 宮本三郎記念賞創設
洋画家・宮本三郎の業績を記念し、優れた具象洋画作品を選考、賞の授与及び受賞作家の回顧展を開催
- 1982年 (財)美術文化振興協会賞を創設し、選考と賞品の授与を行う
- 1982年 ハーバード大学(アメリカ)への美術家派遣事業開始
- 1992年 右卿記念賞を創設し、選考と賞品の授与を行う
- 2005年 ライデン大学(オランダ)への美術家派遣事業
「ジャパニーズ・アート・プログラム」開始(継続 2019年 第13回)
(木版画、書、墨絵、陶芸、日本画、雅楽、尺八、箔-切金・砂子講座 開催)
- 2012年 オランダでの公開講座「ジャパニーズ・アート・セミナー」開始
(日本博物館シーボルトハウス 継続 2019年 第8回)
- 2014年 内閣府から公益財団法人への移行認定を受ける
- 2019年 顕彰事業「JAPA 天心賞」を新設**
日本アセアン文化交流事業(工芸作品・技術を通じての国際文化交流)
タイ王国 Queen Sirikit Institute と JAPA の共同開催プログラム
「《玉虫》がつなぐタイと日本の工芸」実施(東京藝術大学正木記念館)

- 事務局

〒167-0053 東京都杉並区西荻南4丁目12番4号

TEL: 03-3334-7918 FAX: 03-3334-7919

E-MAIL info@finearts.or.jp ウェブサイト <http://www.finearts.or.jp>

令和元年6月1日現在

公益財団法人 美術文化振興協会 名簿 (敬称略)

名誉会長	小和田 恆	元国際司法裁判所所長
会長	近藤 誠一	元文化庁長官
理事長	大津 英敏	日本藝術院会員 多摩美術大学名誉教授 洋画家
常務理事	関 出	東京藝術大学名誉教授 日本画家
	稲葉 政満	東京藝術大学大学院教授 文化財保存学保存科学
理事	小川 東洲	北海道教育大学顧問 書家
	奥谷 博	文化勲章受章者 文化功労者 日本藝術院会員 洋画家
	絹谷 幸二	文化功労者 日本藝術院会員 東京藝術大学名誉教授
	滝沢 具幸	武蔵野美術大学名誉教授 飯田市美術館館長 日本画家
	栗田 和久	日本放送協会専任ディレクター
	加賀谷早苗	当財団事務局長 舞踊家
監事	高橋 幸彦	多摩美術大学元教授 洋画家
	乙丸 哲延	独立美術協会会員 洋画家
評議員	平松 礼二	当財団評議員 日本画家
	綿貫 京子	当財団評議員 染色家
	北條 正庸	多摩美術大学教授 日本画家
	齋藤 典彦	東京藝術大学美術学部教授 日本画家
	荒井 経	東京藝術大学大学院教授 文化財保存修復 日本画家
	野口 玲一	三菱1号館美術館学芸グループ長 元文化庁調査官
	内村 宏	当財団評議員 元三越日本橋本店美術商品部長

令和元年6月16日
公益財団法人美術文化振興協会（JAPA）

顕彰事業 JAPA 天心賞 実行委員

- 理事長 大津 英敏 （日本藝術院会員 多摩美術大学名誉教授 洋画家）
- 常務理事 関 出 （東京藝術大学名誉教授 日本画家）
- 常務理事 稲葉 政満 （東京藝術大学大学院教授 文化財保存学保存科学）
- 理事 奥谷 博 （文化勲章受賞者 文化功労者 日本藝術院会員 洋画家）
- 理事 滝沢 具幸 （武蔵野美術大学名誉教授 飯田市美術館館長 日本画家）
- 評議員 野口 玲一 （三菱1号館美術館学芸グループ長 元文化庁調査官）
- 理事 加賀谷早苗 （当財団事務局長 舞踊家）

第1回 JAPA 天心賞 大賞 岡村桂三郎氏



1958 東京都に生まれる。

1988 東京芸術大学大学院後期博士課程満期退学

1994-1995 五島記念文化賞美術新人賞受賞によるとして、渡米

1987 よりコバヤシ画廊をはじめ個展多数

2006「岡村桂三郎展」(財)佐藤国際文化育英財団・佐藤美術館、東京

2008「岡村桂三郎展」神奈川県立近代美術館、神奈川

主なグループ展

1984「創画展」東京都美術館、東京ほか [-93]

1987「山種美術館大賞展」山種美術館、東京他 [89]

1990「両洋の眼、現代の絵画展」日本橋三越ほか、東京ほか [-95,97-03]

1991「日本秀作美術展」日本橋高島屋ほか、東京ほか [01-03]／

1992「21世紀の旗手 1992 展 -日本の絵画-」

マンリー市立美術館、オーストラリアほか／

「NEW VOICE Contemporary Japanese Paintings」

- ノースダコタ美術館他、ノースダコタ アメリカ他／
「三人展」アルファストギャラリー、ニューヨーク アメリカ
- 1993「ART IN JAPANESE - 現代の「日本画」と「日本画」的イメージ」
O 美術館、東京／
「現代絵画の一断面-「日本画」を超えて」東京都美術館、東京
- 1995「環流-日韓現代美術展」愛知県美術館、愛知
- 1997「VOCA'97 - 現代美術の展望 新しい平面の作家たち」
上野の森美術館、東京
- 1998「日本画」純粹と越境 - 90年代の視点から」練馬区立美術館、東京／
「META 展」丸善日本橋店、東京[-02]
- 1999「現代日本画の展望展」東京ステーションギャラリー、東京
- 2000「表現の磁場-日本画の現在-」武蔵野美術大学美術資料図書館
- 2002「7人の日本人画家展」Galerie U Zlateho Kohouta、プラハ／
「21世紀の目展」日本橋高島屋、東京ほか [-10]／
- 2003「絵画の現在展」新潟県立万代島美術館／
「現在の日本画-その冒険者たち-」岡崎市立美術博物館、愛知／
「Nihonga Works」Japan Cultural Centre、シドニー／
「あるサラリーマン・コレクションの軌跡」
三鷹市美術ギャラリー、東京ほか／
「MESSAGE」コバヤシ画廊、東京[以降毎年出品]
- 2004「超日本画宣言-それはかつて日本画と呼ばれていた」
練馬区立美術館、東京／
「第2回東山魁夷記念日経日本画大賞展」ニューオータニ美術館／
「KIAF 2004 韓国国際アートフェア」COEX、ソウル 韓国／
「2004 亞州新意美術交流展・
New Expression of Asian Art Exhibition」台南文化中心、台南 台湾
「琳派・RIMPA 展」東京国立近代美術館、東京
- 2005「META 展」神奈川県民ホール、神奈川／
「[絵図]と[絵画]との間で」ギャラリーオーブ、京都
- 2006「モダン・パラダイス」東京国立近代美術館、東京
- 2007「初公開!「賛美小舎」上田コレクション」練馬区立美術館、東京
「開館記念《生きる》」横須賀美術館、神奈川／

「日本画ワンダーランド」高崎市タワー美術館、群馬
「META II 2007」
2007-8「ニュー・ビジョン・サイタマ III」埼玉県立近代美術館、埼玉／
「遠き道展」明石市文化博物館、兵庫[以降全国巡回]
2008「第4回東山魁夷記念日経日本画大賞展」ニューオータニ美術館
2009「眼をとじて―“見ること”の現在」茨城県立近代美術館／
2010「-サラリーマンコレクター30年の軌跡-山本冬彦コレクション展」
佐藤美術館、東京／
「META II」神奈川県民ホールギャラリー／
「『日本画』の現在」青梅市立美術館／
「五島記念文化財団-20周年記念展 美の潮流」
Bunkamura ザ・ミュージアム、東京／
「ひろがるアート-現代美術入門篇」三重県立美術館、三重／
「五島記念文化財団「20周年記念展 美の潮流」
Bunkamura ザ・ミュージアム、東京

主な受賞

1985 台東区長賞
1985 創画会賞(88)
1987 創画会春季展賞(89、90、92)
1987 山種美術館大賞展優秀賞
1990 菅楯彦大賞展佳作賞
1991 両洋の眼推奨
1993 五島記念文化賞美術新人賞
2004 タカシマヤ美術賞
芸術選奨文部科学大臣新人賞
2008 第4回東山魁夷記念日経日本画大賞
2012 第18回岡田茂吉賞 MOA 美術館賞

パブリックコレクション

文化庁

台東区

東京国立近代美術館

東京都現代美術館

神奈川県立近代美術館

横浜美術館

豊田市美術館

練馬区立美術館

愛知県美術館

岡崎市美術博物館

新潟県立万代島美術館

山種美術館

青梅市美術館

佐久市立近代美術館



陵王 11-1 (写真撮影:末正真礼生氏)

第1回 JAPA 天心賞 特別賞 柚木沙弥郎氏



1922年、東京田端生まれ。渋谷区在住。染色家。

1922年 東京田端、洋画家の柚木久太と寿の次男として生まれる。

1940年 旧制松本高校入学

1942年 美術史を学ぶため東京帝国大学(現・東京大学)に入学。

1943年 学徒動員。

1945年 田端の家が焼失したため、父の生家岡山県倉敷市玉島に復員。

1946年 大原美術館に勤務。

そこで芹沢銈介の和紙に大胆な民藝模様を型染めした曆に出会う。
民藝に魅せられ民藝運動のリーダーである柳宗悦の著書を読み、
工芸に関心が深まる。

- 1947年 大学での研究と仕事を捨て、芹沢銈介のもとに弟子入りする。
修行の一環として静岡県由比町の正雪紺屋に住み込み、
型から染めまでの染色の技法を学ぶ。
- 1948年 初作品「紅型風型染布」を制作。
柳宗悦に呈示、日本民藝館の所蔵となる。
- 1949年 第23回国画会展に出品。以降毎年参加。
- 1950年 女子美術大学工芸科専任講師に就任。
芹沢主宰の染色家集団萌木会に入会。家族とともに東京に転居。
- 1955年 東京 たくみ工芸店画廊で初個展開催。
それ以後個展、グループ展を多数開催。
- 1958年 ブリュッセル万国博覧会(EXPO '58)で型染型紙が銅賞を獲得。
- 1972年 女子美術大学教授に就任。
- 1982年 東京 田中八重洲画廊で個展開催。染色歴の一つの節目として
タピスリー、屏風、服地、ドレスなど80点を展示。
- 1987年 女子美術大学・女子美術短期大学の学長に就任。
1991年退官まで務める。
- 1990年 第一回宮沢賢治賞受賞。
- 1993年 東京 渋谷区立松濤美術館で「柚木沙弥郎の染色」展開催。
- 1996年 絵本「魔法のこぼれ」が「子どもの宇宙」国際図書賞を受賞(スイス)。
- 2002年 熊本 小国町立坂本善三美術館で「柚木沙弥郎展」開催。
- 2006年 秋田市立千秋美術館で「つくり、たのしく生きる 柚木沙弥郎」開催。
- 2008年 京都 アサヒビール大山崎山荘美術館で「柚木沙弥郎 染の仕事」展
を開催。
岡山県立美術館で「柚木沙弥郎一わきあがる色と形」展を開催。
- 2012年 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館で「柚木沙弥郎」展を開催。
- 2013年 東京 世田谷美術館で「柚木沙弥郎 いのちの旗じるし」展を開催。(翌年岩
手県立美術館でも開催。)
- 2014年 フランス・パリ 国立ギメ東洋美術館で「La Danse des formes 柚木沙弥郎」展
を開催。(翌年 フランス・ニース アジア美術館で巡回)
- 2017年 広島 泉美術館で「柚木沙弥郎 いのちの旗じるし」展を開催。

2018年 東京 日本民藝館特別展「柚木沙弥郎の染色 もようと色彩」展を開催。現在も精力的に制作を続けている。

<作品所蔵>

国立近代美術館

福島県立美術館

世田谷美術館

日本民藝館

女子美術大学美術館

坂本善三美術館

神奈川県立美術館

岩立フォークテキスタイルミュージアム

岩手県立美術館

フランス国立ギメ東洋美術館

イギリス国立ヴィクトリア&アルバート美術館



いのちの樹 (Galerie Etienne de Causans, Paris, 2018)